



モア通信 No.06

2012年10月2日

相互理解で共感力の元氣と豊かさを

モアネット共同代表 加藤 博史

インターネットで外国人福祉委員養成講座が受講できます

<http://www.kyoto-more.net/hosyu.htm>

①養成講座での講義内容をこのページでの mp3 形式の音声ファイルで聴講してください。

②講義を聴講した後、**【WEB 補習レポート】**を提出してください。受講された講義の感想などをお書きの上、FAX または E-mail で送付してください。

③京都モアネット事務局で受講状況を確認し、すべての受講が確認されれば、外国人福祉員として登録。外国人福祉員登録証をご送付いたします。

第1回 京都モアネットについて～在日外国人に対する福祉のあり方とモアの設立～

第2回 在日外国人の社会保障の歴史、今後の趨勢と課題

第3回 京都モアネットの相談事例～外国人福祉員の必要性和活動内容について～

第4回 モアネットの目指すもの～インクルーシブコミュニティと多文化共生社会～

第5回 高齢者に対する理解～高齢者の尊厳と生きがい～

第6回 障害者に対する生活支援の理解

第7回 相談支援活動の心構えについて

第8回 今後の多文化共生社会のあり方と求められるもの

人はすべて、人類という同じ種^{しゅ}に属しています。人は同じ祖先をもつきょうだいです。

ですから民族性は個人の「文化のルーツ(根っこ)」として重要ですが、私たちの「自分らしさ」は多層性をもっており、民族性だけを絶対視することはできません。

あらためて多文化共生とは何かを考えてみます。桑原武夫が草稿した「京都市世界文化自由都市宣言」(1978 年)は、「全世界の人々が人種・宗教・社会体制の相違を超えて文化交流を行う都市」とされています。また、「京都市国際化推進プラン」(2008 年)では、①外国にルーツを持つすべての人が暮らしやすく能力を活かして地域で活躍できる社会、②地域での交流機会の促進、③多文化を尊重する意識の啓発、を目標として掲げています。

まず、自由都市宣言ですが、交流を進め深めていくに際して、①外国にルーツを持つ人たちに対等な社会的権利を保障していくこと、②社会参画の機会を同等に広げていくこと、③アジアの国、とりわけ韓国・朝鮮への侵略の歴史認識、およびここに由来する在日コリアン差別の現状認識を持つこと、が求められます。この条件が重要なのではないのでしょうか。次に、プランですが、「多文化尊重」のイメージが「多文化主義」とも関連して、つかみにくいのです。「自文化と共に異文化尊重」ならとても分かるのです。

目指すべき共生社会とは、文化の種類がモザイクのようにいっぱいある社会ではなく、自分を育てた風土と歴史を丸ごと受けとめると同じように、外国にルーツのある人の独自のアイデンティティ(自分らしさ)を尊重し、対話し理解し合い、同化を強制せず強制されず、「人間を大切にすまち」づくりに協働していく社会だと思います。

日本と韓国・朝鮮文化の間で、自分らしさの落ち着き所が不安定な人がいます。その人には、むしろ豊かなアイデンティティをもっておられることを受けとめてお伝えし、ありのままの自分に誇りがもてるように手助けしたいものです。外国にルーツのある人に対する偏った思い込みやこだわりを、人間同士きょうだいとして、また主体的意志をもつ個人として、相互理解を通してのり越えていきたいものです。

最後に異文化の相互理解についてふれます。文化の創造性は、異文化との衝突・摩擦とそれを乗り越えての交流・対話によって活性化されます。「ハイブリッド車」などで使われる異なる利点を活かす「ハイブリッド」という言葉がありますが、文化はハイブリッドで元気になり豊かさを増します。ハイブリッドとは、「違いを活かす相互理解の結びつき」だとも言えます。ちなみに文化について、ゲーテ研究者の高橋義孝は「文化の豊かさとは共感力の高さ」と言っています。そしてゲーテは、「深く聴く力が文化の力」と語っています。

モアネットは、私たち自身が新たな信頼関係を築くことによって、こだわりから解放され異なる文化を活かす場所、個人の様々な思いを柔らかく開くことができる場所、その橋渡しの働きがなされる場所でありたいと思います。

<総会の様子>



<報告会>



<訪問の様子>



お茶を飲みながら話も弾みます



よう来たなあ～



ご主人の介護に奮闘のオモニ！

総会報告

2012年7月29日午後1時より 京都市地域・多文化交流ネットワークサロンにおいて、京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」第7回総会が開催されました。総会では加藤博史共同代表（龍谷大学短期大学部教授）からの挨拶に引き続き、2011年度の活動報告と会計報告があり、①外国人福祉委員派遣事業 ②東九条（山王・陶化学区）、小栗栖地域の高齢者生活実態調査 ③外国人福祉委員の研修 ④外国人福祉委員活動の整備・充実化に向けての活動 ⑤他の外国人支援団体との連携活動についての報告がありました。

続いて2012年度活動計画案が審議され、①外国人福祉委員生活支援及び訪問活動 ②ネットワーク強化について ③外国人福祉委員制度の整備・充実化に向けての案が審議され、原案通り承認されました。

これに引き続き、役員の改選が行われ、前役員の再任と運営委員に南珣賢（NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事）が新しく就任すること、監査に崔忠植（希望の家カトリック保育園園長）が就任することが決議されました。

外国人福祉委員報告会

今回、初めての試みとして、外国人福祉委員による活動報告会が行われました。モアネットの活動に参加してくださっている7名の外国人福祉委員が一人ひとり日頃の活動に関して感じる事、提言をして下さいました。

- ① 諸葛壇さん 研修会参加がきっかけでモアネットの活動に参加している。福祉委員の日々の活動、研修や総会を通じて改めてこの活動の重要性に気付いた。対象者に対して忍耐強く聴くということが信頼関係を構築し、長い関わりにつながっている。
- ② 林栄子さん 毎月10名ほど担当。高齢者は体の衰えの辛さやストレスから不安や寂しさを抱えている。その中で訪問する高齢者は傾聴活動を喜んでくれるので活動の必要性をとても感じる。思った事や疑問については事務局の人と一緒に解決していきたい。
- ③ 佐川嘉奈子さん 朝鮮語を知らないことから、言葉が通じない不安があったが、昨年の調査がきっかけで2世の方を訪問することができている。訪問する時に福祉委員の札を首から下げるようにし、顔を覚えてくれるようになった。傾聴活動を行うご本人だけでなく、同居のご主人の話も一緒に聞くようになり、ご主人の見守りも必要だと感じた。お二人共に見守っていきたい。
- ④ 裴順福さん 月1回3人ほどの高齢者の家に訪問。福祉委員は専門家ではないので、どう接していけばいいかをテーマに活動をしている。また、高齢者にどのような立場で対応していくべきなのか。この活動をきちんと位置づけ真摯に考えながら行っていくべき。具体的に福祉委員の活動の幅を広げられたらと思う。

- ⑤ 姜主淳さん 2008年、総聯西支部高齢同胞長寿会「アジッカジ」結成と併せて福祉委員活動を開始した。訪問し、傾聴、見守り、用事の世話、書類の代書、アドバイスをを行う。初期の頃は実務的で“してあげている”という上から目線であったが、そのような対応では心を開いてもらえない、人と人との関係作りが大切だと認識した。対象者は、体力が衰え、生活のメリハリが少なく余生を漠然と過ごしている人が多い。天命を穏やかに全うしたい、身動きのできなくなった時はよろしく頼むと異口同音に語る。福祉委員だけでなく家族にも迷惑をかけないようにしたいと考える人も多いが、これからも見守りを続けていきたい。
- ⑥ 朴淳湖さん 福祉委員として高齢者の通院介助をしている。対象者は体に麻痺があり、テレビを見て過ごす事が多い。でも訪問すると家族の話などたくさん話してくれる。また、今回初めて訪問通訳を行った。訪問だけでなく、学生ボランティアの派遣など仲介もしている。
- ⑦ 金舜詠さん 去年のモアの調査でハルモニたちと出会い、今度いつ来るんや？と言われたことがきっかけでモアの訪問が始まった。ハルモニの苦労や思いを知り、関わりを深める一方で、「モア」として活動していることが本人や家族に伝わっていない現状を知った。何かあった時の連絡先を知ることや、家族との連携も大事だと感じ、事務局を通じて介護保険担当者や通院先の先生、娘さんとも連絡を取ることができた。ハルモニの笑顔を見ること、家族との絆が深まった、という体験が私の転機になった。これらに感謝し、これからも活動を続けていきたい。

福祉委員からの報告の後にはグループに分かれて報告を踏まえたグループワークが行われました。そこでは、自由に感想を述べ合った後、これからの福祉委員の活動について話し合いました。傾聴活動しながら、高齢者の生きていく意義を見つけるお手伝いをしていきたいという意見や、また事務局の体制強化の指摘も受けました。

外国人福祉委員の登録者は多くいますが、実際に参加している人は少なく、またモチベーションの差もあります。このような報告会やグループワークをする事によって、外国人福祉委員の活動の量と質を上げるきっかけとなればと思います。

●報告会に参加して

同志社大学社会学部社会福祉学科 4 回生 牧嶋恵子

この度外国人福祉委員の方々のお話を聞かせていただき、異国で老いるということについて考えるきっかけをいただきました。「老い」という感覚すらまともに捉えられる年齢でもない私がさらに「異国での老い」を想像することは大変難しいものでした。しかしながら、外国人福祉委員の方々のお話から、利用者を想い、寄り添い、共にある方々の姿を知ることができました。接する者は「異国での老い」を完全には理解できなくとも、利用者の人生と真摯に向き合うことが重要であることを学びました。熱い想いが伝わってくる刺激的な時間を過ごすことができました、ありがとうございました。



福祉委員「最近はどう～？」



福祉委員「体調はいかがですか？」



アイゴ～今日はねえちゃんたくさん来てくれたな～ありがとうなあ！

<グループワーク>



「東九条地域における医療・福祉のネットワークを発展させる連絡会」で 東九条高齢者調査の報告会おこないました！

報告：石川 久仁子

東九条には高齢者ケアに従事する専門職がたくさん働いています。このような専門職の方々が研修および交流する場として「東九条地域における医療・福祉のネットワークを発展させる連絡会」(事務局：東九条および陶化地域包括支援センター)が年に数回もたれています。モアネットも参加していますが、外国人福祉委員という取り組みの内容は他の福祉関係者にとってはまだまだ聞きなれないものです。また、新しく東九条で働く専門職にとっては東九条の歴史や在日コリアン高齢者の生活などは知らないことが多いそうです。そこで、7月4日におこなわれた連絡会では「東九条 再・発・見～地域と事業所、つながれば面白い～」をテーマに、モアネットなどで2011年3月及び5月に実施した『東九条・小栗栖高齢者実態調査』については報告会を行いました。40人ほどの専門職が参加しました。

改めて、東九条には一人暮らし、在日コリアン、生活保護受給、賃貸住宅にお住まいの高齢者が多いことをデータで再確認しながら、これらの高齢者が家族や友人・近隣住民「親族との行き来があるか、もしくは親族以外(友人・近所他)との行き来があるか」でみると少なくとも一方と行き来のある人が9割以上、「どの福祉関係者を知っているか」という質問に対しては民生委員＞老人福祉員＞専門職の順番によく知っている、特に民生委員については陶化学区・山王学区ともにほぼ5割の人が知っているなど、地域住民による取り組みがよく知られており、このような住民によるボランティアな動きとケアマネージャーなどの専門職が連携する必要性が確認されました。調査報告の後には参加された専門職の方からご担当の事例の紹介があったり、介護保険制度導入後に福祉事務所のワーカーの関与が減ったのではないかとの問題提起もなされました。

報告会の終了には多くの参加者から感想が寄せられました。「6月からケアマネージャーとしてこの地域で働かせていただきました。モアネット等知らないことや地域の特徴などを教えて頂く機会も少ないので貴重な時間となりました」「東九条ネットワークの大切さ重要さがよくわかった。」「本日ご発言いただいた皆様と想いが同じであったことが大変心強く感じました。ありがとうございました。」

改めて、古くからの専門職も、新しく東九条で働くことになった専門職も東九条に暮らす高齢者を共に支えていこうという思いを共有する集まりでした。

夕陽紅（シーヤンホン）の会を応援！



中国残留孤児の1世と配偶者を対象にしたミニデイサービス「夕陽紅(シーヤンホン)」が、京都市伏見区で始まりました。高齢化に直面する1世たちに安心して老後を過ごしてもらおうと、子や孫・支援者たちで立ち上げました。中国残留孤児の1世は在日コリアン同様、言葉や生活習慣の違いから既存の福祉サービスを十分に受けられない状況があります。日本人だけれど生活文化は中国という特異な歴史を持つ

1世の背景を理解した2世や3世が日本語教室で福祉について学び、ヘルパー資格の取得を進めてきました。「夕陽紅」は4月から月に1度、伏見区を中心に開催しています。進行は中国語で、民族衣装を着て舞踊を披露したり太極拳を取り入れた健康体操を楽しみます。エルファやモアネット、APTなどで構成されている「きょうと外国人支援ネットワーク」は今後もこの活動を支援します!!

2011年度の活動(2011年4月～2012年3月)

2011年度
モアネット対応相談件数内訳

1. 外国人福祉委員派遣事業

外国人福祉委員が、来所での相談、自宅訪問による安否確認や話相手・傾聴、そのほか必要時における支援などを行いました。また、定期的な訪問活動を行っている、あるいは孤立しがちな対象者については、介護保険事務所やその他の関係機関と連携しながら見守りを行ってきました。本年度は、42人の福祉委員がのべ1,010件の生活支援活動を行いました。

2. 東九条(山王・陶化学区)、小栗栖地域の高齢者生活実態調査

埋もれているニーズを把握するため、山王・陶化自治連合会・小栗栖自治会の協力を得て、3月と5月、山王・陶化・小栗栖地域の高齢者生活実態調査を行ないました。584人から回答を得、その中でも特に在日コリアン141人、中国帰国者20人においては、福祉・医療サービスの情報が行き届いていない、孤立感や寂しさを感じているなどのニーズを発見しました。それを元に、地域ネットワークの形成、モアネットの支援や他の福祉サービスにつなげ、連携し、見守りを行う、新たな支援体制を構築することができました。また、調査に協力いただいた山王・陶化学区自治連合会、民生委員、老人福祉委員の方々に対して調査報告会を開き、結果と分析の報告を行って、今後のモアネットとの関係作りについての道筋を作ることができました。

3. 外国人福祉委員の研修

12月に懇談会を行い、日頃の活動内容や情報交換などをおこないました。また、ケース検討会を開き、支援のあり方や振り返りを行うなど、福祉委員の研修を行ないました。

4. 外国人福祉委員活動の整備・充実化に向けて

12月に第5号通信を発行し、総会報告、高齢者生活実態調査報告を掲載し、モアネットの活動への理解と活動に対する支援・協力依頼を行いました。また、運営委員会で、活動の充実化に向けて議論を重ねてきました。

5. 他の外国人支援団体との連携

「きょうと外国人支援ネットワーク」の多言語パンフレットの作成に協力し、幅広い対象を支援できる体制作りを行いました。また、日常的に京都市内にある外国人支援団体との情報交換を行い、外国人支援のネットワーク作りに協力しました。

			月	合計
対象者	性別	男		62
		女		98
		合 計		160
		～19歳		0
		20歳～29歳		1
		30歳～39歳		5
		40歳～49歳		4
		50歳～59歳		12
		60歳～69歳		32
		70歳～79歳		47
		80歳～89歳		49
		90歳～		10
		合 計		160
	国籍	韓国・朝鮮		160
		中国		0
		アメリカ		0
		フィリピン		0
		タイ		0
		その他アジア		0
		イギリス		0
		ブラジル		0
		その他		0
		合 計		160
相談経路	本人			120
	家族			40
	民生委員・老人福祉員			0
	ケアマネジャー、ヘルパー			0
	福祉事務所等行政			0
	病院・医院			0
	その他			0
	合 計			160
対応方法	外国人福祉委員の訪問			140
	電話相談			20
	来所相談			0
	その他			0
	合 計			160

<福祉委員同士の交流も兼ねたお茶会の様子>



6月23日、今年度最初のお茶会。日頃の活動についてお互いに報告しあいました。この活動の大切さを確認したあと、外国人福祉委員をもっと増やして活動を活性化したい、気軽に集まれるサロンを地域に増やせないか、など活発な意見がでました。



9月1日、2回目のお茶会。陶化包括支援センターの古川所長に来ていただき、京都市でこの夏から始まった、一人暮らし高齢者を地域で見守るための全戸訪問活動について、状況報告をしていただきました。関係機関や地域の役員さんにモアの役割を知ってもらい、私たちも協力できればと話し合いました。

京都モアネット役員

京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モア収支決算書

【顧問】

小澤亘(立命館大学教授)

王清一(在日本大韓国民団京都府地方本部団長)

金学福(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部委員長)

田中宏(在日韓国・朝鮮人高齢者の年金訴訟を支える会)

鄭禧淳(NPO 法人京都コリアン生活センターエルファ理事長)

仲尾宏(京都造形芸術大学客員教授・元京都市外国籍市民施策懇話会座長)

水野直樹(京都大学教授)

【共同代表】

加藤博史(龍谷大学短期大学部教授)

金周萬(在日本大韓国民団京都府地方本部福祉事業推進委員会委員長)

琴基都(在日本朝鮮人総聯合会京都府本部京都同胞生活センター会長)

朴錫勇(札の辻診療所所長)

【運営委員】

金秀煥(朝鮮総聯京都府本部・京都同胞生活センター事務局長)

金洋子(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

宋基和(大韓国民団京都府地方本部南支部副支団長)

李喜代(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

南珣賢(NPO法人京都コリアン生活センターエルファ理事)

加藤博史(兼任)

琴基都(兼任)

金周萬(兼任)

朴錫勇(兼任)

【会計】 金洋子(兼任)

【会計監査】 崔忠植(希望の家カトリック保育園園長)

【事務局長】 金秀煥(兼任)

〒601-8007 京都市南区東九条北河原町5
 京都外国人高齢者・障がい者
 生活支援ネットワーク「モア」(京都モアネット)
 TEL075-681-2721
 FAX075-681-2722
 Email kyotomorenet@yahoo.co.jp
 郵便振替口座:00990-4-314429
 加入者名:京都外国人高齢者障害者
 生活支援ネットモア

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

(単位:円)

科 目	金 額		
1、収入の部			
会費	29,000		
京都市助成	1,120,000		
寄付金	600,000		
雑収入	10,178	1,759,178	
当期収入合計 (A)		1,759,178	
前期繰越差額		797,656	
収入合計 (B)			2,556,834
2、支出の部			
1)外国人福祉委員派遣事業に係る経費			
・報酬費	957,400		
・通信費	299,441		
・事務費	12,842		
・賃借料	600,000		
・水道光熱費	85,328	1,955,011	
2)啓発事業			
・広告宣伝費	47,920		
・雑費	21,352	69,272	
当期支出合計 (C)			2,024,283
当期収支差額 (A)-(C)			-265,105
次期繰り越し差額			532,551

編集後記

▼今年度の総会では、初めて、外国人福祉委員から日々の活動について報告してもらいました。福祉委員は振り返りのいい機会となり、また、福祉委員の果たす役割を再確認できました。▼独居高齢者の地域での見守り体制を作るため、包括支援センターによる全戸訪問が始まりました。外国籍住民で見守りが必要な人に対しては、モアもお手伝い出来ればと思います。一方、独居でない高齢世帯や障害者世帯に対しても、周りの人たちのちょっとした心配りができれば…。▼モアの手伝いに代わって、パンフレットが完成。それを持って、事業所や行政に足を運び、活動を伝え、見守りネットワークを広げていきたいです。▼外国人福祉委員を増やすため、来年養成講座を開く予定です。対象者の話に耳を傾けることが、一方的な支援ではなく、自身も豊かな体験となることに気づいてもらえるはず。受講生の年齢・国籍は問わず。参加お待ちしております！(み)